

## 『進化するゲノム編集技術』正誤表

この度は『進化するゲノム編集技術』をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書の内容に以下の訂正箇所がございましたので、  
訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

箇所		誤	正
P.291	本文 下から10行目	～(図1)～。このような～	～(図1 <sup>1)</sup> )～。このような～
P.291	本文 下から8行目	～組換え(図2(a))が起こり、～	～組換え(図2 <sup>24)</sup> (a))が起こり、～
□-21 P.292	図1 キャプション	図1 二本鎖DNA切断修復機構とヘテロ接合性喪失との関連性	図1 二本鎖DNA切断修復寄稿とヘテロ接合性喪失との関連性 <sup>1)</sup>
□-22 P.293	図2 キャプション	図2 二本鎖DNA切断修復機構の3つの経路	図2 二本鎖DNA切断修復機構の3つの経路 <sup>24)</sup>
P.293	本文 上から7行目	交差型機構 <sup>6)</sup> (図3左のAB1, ～	交差型機構 <sup>6)</sup> (図3 <sup>1)7)24)</sup> 左のAB1, ～
□-22 P.294	図3 図内説明文	非交差型 ※口絵参照	非交差型 The Genetics Society of America granted permission. ※口絵参照
□-22 P.294	図3 図内説明文	左: 非交差型相同組換えによる遺伝子修復のメカニズム, 右: 交差型相同組換えによるドナーベクター挿入のメカニズム(両端矢印: 遺伝子変換領域)	左: 非交差型相同組換えによる遺伝子修復のメカニズム <sup>1)7)</sup> , 右: 交差型相同組換えによるドナーベクター挿入のメカニズム(両端矢印: 遺伝子変換領域) <sup>24)</sup>
P.295	本文 下から4行目	～侵入し(図4のAB1, ～	～侵入し(図4 <sup>24)</sup> のAB1, ～
□-23 P.295	図4 キャプション	図4 ヒト細胞で従来型ジーンターゲティングによって見出されたSDSAベースの非交差型機構を介した無作為挿入のメカニズム	図4 ヒト細胞で従来型ジーンターゲティングによって見出されたSDSAベースの非交差型機構を介した無作為挿入のメカニズム <sup>24)</sup>
P.300	文献 追加		<sup>24)</sup> Y.Yamada et al. : Regulation of homologous integration in yeast by the DNA repair proteins Ku70 and RecQ, <i>Mol Gen Genomics</i> , <b>273</b> , 167–176 (2005).